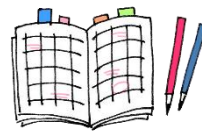


オフィス恩

ちょっと Chat

社労士事務所オフィス恩 代表 橋本 麻由美 (はっしい)
 特定社会保険労務士・キャリアコンサルタント
 行動指針作りアドバイザー・承認コミュニケーター
 日本褒め言葉カード協会インストラクター
 持ち味ファシリテーター
 日本ストレスチェック協会ファシリテーター

来年の手帳を
 そろそろ買いたい
 と思います！



すべての人に正しく情報を伝える「カラーユニバーサルデザイン」

◆「カラーユニバーサルデザイン」とは

「カラーユニバーサルデザイン」とは、「多様な色覚に配慮して、情報になるべくすべての人に正確に伝わるように、利用者の視点に立ってデザインすること」をいいます(東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン)。たとえば色覚に異常のある人や、緑内障など網膜の疾患を持つ人、白内障の人などは、色が見分けにくいために配色によっては色を用いた情報が適切に得られないこともあります。カラー

刷りのチラシや案内、ホームページなどで発信しているその情報、わかりやすく正しく伝えることができますか？



◆「色を用いた情報」を正しく伝える大切さ

日本眼科学会によると、日本人の場合、男性の20人に1人、女性の500人に1人が色覚に異常があります。塗装・印刷・コンピューター技術の発展によって、従来白黒表示だったものが急速にカラー化する中で、色を用いた情報を正しく伝えることのニーズは高まっているといえ、すべてのユーザーが平等に情報を得られるよう配慮したデザインを心がける必要があるといえます。

「ピンク色の申請用紙にご記入ください」と案内をされても、色弱者にとっては、どの用紙がピンク色なのかわかりません。色の名前を用いてやりとりされる可能性があるものには、色の名前を記載し、コミュニケーションを図りやすくします。
 ～ カラーユニバーサルガイドブック(鳥取県)より引用 ～

◆既存媒体の確認から始めましょう

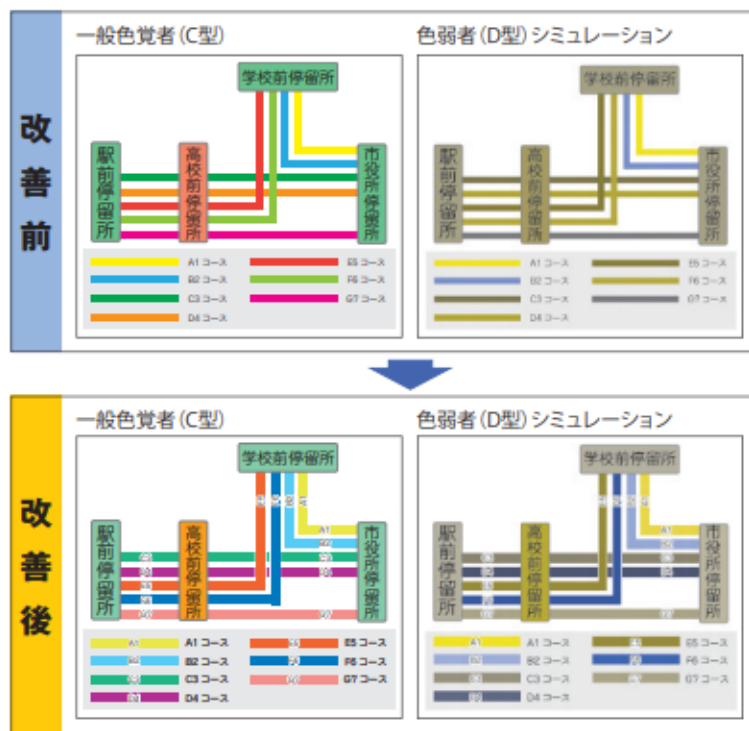
カラーユニバーサルデザインに向けた取組みの第一歩として、まずは、既存の情報提供媒体をチェックしてみましょう。簡易な方法として、白黒でコピー・印刷してみて、情報がきちんと読み取れるか確認することでも十分です。各色覚タイプによってどのように見えるのか、チェックできるツールも印刷物・Web ともにありますので、これらも活用してみるとよいでしょう。そして問題が見つかったら、補完作業を行います。

ほんの少しの取組みで、情報の発信力は大きく変わります。すべての人にわかりやすい情報提供をするための、工夫や配慮を考えてみませんか。

【参考】 ↓ ↓

カラーユニバーサルデザイン
ガイドブック～鳥取県～

https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/954753/CDU01_CUD20.pdf



～ カラーユニバーサルガイドブック(鳥取県)より引用 ～
地下鉄などでもこのような表記になっていますよね！



先月のオフィス恩の活動

障害年金請求業務に時間の大半を費やしていた1か月でした。実際に書類を作成する時間だけではなく、ご病気について調べたり周辺知識のブラッシュアップなどが必要です。社労士だけではなく、他士業もそうだと思いますが、こういった時間もきっと報酬に反映されているのだと感じます。社労士試験に合格したあと、それで終わりではないのは理解していたつもりですが、想像以上に学ぶことは多いです。でも・・・その時間のすべてがワクワクするというか、「もっと知りたい」「もっと理解を深めたい」の連続なのです。

自分の持ち味は「ゆっくりでも成長できる」ことなのではないかと思う今日この頃です(笑)

～ON (オフィス恩) ⇒ OFF (プライベート)～

片づけをしていたら、大学のゼミの先生からのお手紙が出てきました。「卒論に対する評価」に関する手紙でした。
読み進めていくと・・・マズローやロジャーズといった名前が。経営学のゼミだったのですが、どのような内容を論じたのか、もう全く記憶がないです(笑)

★今月の御朱印★
京都の仁和寺。秋の特別公開での限定御朱印です。「軍荼利明王(ぐんだりみょうおう)」とあります。煩惱や障害を取り除き払いのける力があるとされています。



では、また来月もよろしく願いいたします！